

2015自己評価シート 近江聖書学園 水口幼稚園

氏名

歳児

ぐみ

本年度教育目標(年主題) そのままがいいんだ

担当係

評価項目	目標及び実績 本年度重点的に取り組むことが必要だと 思われること	方策(具体的な取り組み方)	取り組みに対する自己評価(5段階)			総合評価 (5段階)	考察
			第1保育期	第2保育期	第3保育期		
教育目標 教育課程 (方針)	・子ども主体の保育。 ・子どもの自発性を引き出す保育。遊び に深まり・発展のある保育。 ・各年齢層、発達過程・季節に合わせた プログラムを行う。	・子どもの姿をよく観察、理解して保育を計画、 実践する。 ・子どもが興味を持てるような遊びを提案したり、 遊びを引き出せるよう環境を整える。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.3	子どもの発達や様子、気付きや発見を大切 にし、環境を工夫することで子どもの自発性 を活かした遊びが展開できた。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.2	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.3	
子どもと の関わり	・一人ひとりを大切に。子どもの思い に寄りそう。一人ひとりの良いところを伸 び伸ばす。 ・子どものありのままの姿を引き出す。受 け入れる。 ・子どもと様々な体験を共有する。 ・子どもの様子・発達に合わせて臨機応 変に保育を行う。子どもと適切な距離を 保つ。	・一人ひとりと積極的に関わる。ありのままの姿 を受け入れる。 ・違う事の豊かさを意識し、認め合えるような保育 を行う。 ・子どもの感じたこと、経験したことを共有し、遊 びが深まるよ配慮する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.4	一人ひとりをよく観察して、安心して自分を 発揮できるよう関わる事ができた。 保育者が子どもたちの個性を大切にすること で、子どもたちにも違うことの良さが伝 わったように思う。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.4	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.3	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.2	
教育環境 整備	・遊びを広げ、工夫できる環境作り。(物的 環境の充実。) ・冒険の森の活用。 ・必要な人員配置を行う。 ・片付けをきちんとする。あつたものは元 の場所に戻す。(片付けしやすい環境づく り)	・子どもの遊び、成長に応じて物的環境を整える 。冒険の森での遊びの広がりを探索していく。 ・広い視野を持ち、全体を見て保育者同士連携 して保育を行う。 ・片付け、整理整頓を日頃から心掛ける。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	意識して物的環境構成を整えることが出来 た。冒険の森に登れる子どもは増えたが、 登り降り以外の活用はもっと工夫の余地が ある。幼稚園内の整理整頓は担当 場所を決めて努力した。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.7	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.1	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.5	
保護者との 連携	・保育方針をわかりやすく伝える ・話しやすい、相談しやすい雰囲気作り。 (保護者との信頼関係を築く。) ・子どもにとって必要なことを保育者とし てしっかり伝える。 ・保護者、保育者が子どもの成長につい て共有し、共に理解する。	・挨拶を積極的にする。 ・保護者との会話を大切に、保護者の思いも受 け取め、一人ひとりと関わる。 ・園だより、クラスだより、ホームページを活用 し、園やクラスの保育方針を伝えるよう努力す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	できるだけ保護者と声を交わすようにした。 保護者の話を聞くよう心掛けた。 一方個々の課題を的確に伝えることの難し さを感じた。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.1	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.2	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.3	
組織運営 (クラスと して、全 体として、 他の保育 者との関 わり)	・複数担任制を活かす。(他の保育者から 学ぶ。各クラスの良さを個性を出す) ・園内研修をする。 ・各保育者・担任間で報告・連絡・相談を 密にする。(情報を共有) ・やりがいのある職場づくりをする。	・保育者同士、個性を大切に、保育を行う。保 育や子どもについての話し合いを持つ。 ・ノートなどの活用で記録を充実させ、連携が取 れる工夫をする。 ・保育者同士の会話や交流を深める。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.4	報告、連絡、相談を意識して、連携しながら 保育に当たることが出来た。複数担任制を 活かして、学び合うこともできた。 他クラス、他学年の保育者同士の関わりは どうしても少なくなるので工夫して連携する 必要がある。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.4	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.1	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.5	
特別支援 教育	・インクルージョンの徹底(一人ひとりの 違いに気づき、受け入れ、認め、共に過 す) ・子どもの様子をよく観察し、理解に努め る。(一人ひとりに応じた適切な計画をた てる) ・特別支援教育についての正しい考えを 広める。 ・他人も自分も思いやる心を育てる。	・子どももおとなも違いを認め合い、その上でより 豊かな生活、活動ができることを感じ合う。 ・正しい人間理解を土台とした保育を徹底し、そ の子どもたちにも保護者にも伝えていく。 ・一人ひとり、必要な時に必要な支援を行えるよ う、支援のタイミングと内容を考慮する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.6	保育者自身の意識の持ち方が子どもたち にも伝わっていると実感した。課題を持つ子 ども一人ひとりには丁寧な対応ができた が、その子ども中心の保育という点では課 題が残る。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.3	
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	
研修	・進んで、様々な研修に参加する。 ・研修で学んだことを日々の保育に活か す。	・研修等に参加し、保育の向上に努める。 ・保育者同士学びを共有し、保育に活かすよう努 める。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	研修に積極的に参加できた。また研修報告 を聞くことで学びになった。園内研修はこれ からも続けたい。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.6	
子育て支 援	・保護者の様々な不安に対応する。 ・親子での遊び場を提供する。子育ての 楽しさを知らせる。 ・子育てに必要な情報を発信する。	・保護者がいつでも相談しやすい雰囲気づくりを 意識して行う。 ・つくり親子ひろばを開催する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.9	保護者との会話を大切に。未就園児の つくり親子ひろばを開催した。保護者の抱え る悩み、問題も多様化し、対応に難しさを感じ る。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3.7	
自己研鑽	・保育者は自分らしく生き活きと過ごす。 ・保育者は自分の幼稚園という意識を高 く持ち、責任を持って行動する。	・向上心を持ち、様々なことに取り組む。 ・自分の時間を充実させ、保育に活かしたり、保 育の幅を広げたりする。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.2	休日や保育の仕事を通して、楽しみややり がいを見つけ、自分らしく過ごせた。
			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4.4	

※評価項目については別紙資料参照

来年度取り組むべき課題

一人ひとりの子どもを大切に、遊びを中心とする保育が展開できた。来年度もさらに子どもたちの自発性が育つ環境構成を目指したい。  
話し合いやノートの活用により、保育者同士の連携が取れるよう努力したが、クラス学年を越えての情報交換はさらに密にする必要がある。  
保護者との関わり、子育て支援について意識して努力をしているが、保護者の意見や悩みも多様化しており、さらに一人ひとりを大切に  
関係作りが課題となる。幼稚園の思い、保育のねらいを伝える工夫もさらにしていきたい。

学校関係者の評価

幼稚園と保護者の関係が密なのが水口幼稚園の特徴でもある。時代の風潮に流されないように、園の教育方針を信念をもって伝え、保護者の共育も大切にしたい。  
インクルージョンを大切にしている点に共感する。保育者も自己評価を通して、反省、課題を活かして保育にあたることを期待し、応援している。